

」 科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	17HP2006	事業期間	平成29(2017)年度～ 令和3(2021)年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
Journal of Chemical Engineering of Japanの国際情報発信強化の取組み		公益社団法人 化学工学会	会長・阿尻 雅文
学術刊行物の名称			(略称)
Journal of Chemical Engineering of Japan			JCEJ

【令和元(2019)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
○ A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>論文誌 <b>Journal of Chemical Engineering of Japan</b> がさらに国際的に認知されるための取組として、科学研究費補助金を用いた海外の学会等での PR や優れた研究論文を選択してオープンアクセス論文として公開する取組は、一定の効果が認められる。</p> <p>引き続きアクセスログ数の解析等により認知度を高める方策を検討するとともに、科学研究費補助事業が終了した後もオープンアクセス論文の公開ができるだけ廉価にできるような財源確保や、認知度の増加を会員数の増加につなげて、安定的な論文誌発行ができるような体制の構築を検討することが望ましい。</p>	